



## 研究・国際(研究) / 施設担当理事

(2008.10.1 – 2009.10.31)

(2009.11.1 – 2010.9.30)

藤井 信孝

### □研究・国際(研究)担当

#### ○白眉プロジェクト

京都大学を構成する若手研究者が生き生きとして研究に専念できる体制を構築することが肝要です。若手研究者がアカデミアに残って研究を継続するために、京都大学独自の予算を活用して自由度の高い研究環境の中で優秀な若手研究者を確保し、本学から継続的に次世代研究者を育成することを目指して次世代研究者育成支援事業「白眉プロジェクト」に取り組みました。教員定員の確保が厳しい環境の中で、優秀な若手研究者を世界から集めて自由な環境下で少なくとも5年間研究に専念していただくという趣旨で、平成21年度からスタートしています。

### □施設担当

#### 施設整備

本学は中期目標の前文において『自由の学風を継承・発展させつつ多角的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献する』という理念を掲げています。本学の施設整備は、教育・研究・医療活動の基盤となる施設について計画的に整備を図ることを目的とし、以下の5つの基本方針に基づき推進しています。

#### ○安全安心な教育・研究・医療環境の再生

京都大学は110年以上の歴史を持つ大学であり、登録文化財となるような建物も含め、古い建物が多く存在しています。そのなかで耐震性が劣る建物がいくつも存在することが大きな課題となっています。そこで「京都大



安全安心な教育・研究・医療環境の再生 (教育学研究科)



安全安心な教育・研究・医療環境の再生 (数理解析研究所)



積貞棟（寄附病棟） 竣工

学耐震化推進方針」を策定し、耐震性や安全性に問題があり、教育・研究・医療活動に著しく支障がある施設の再生を最優先課題とし、耐震化を積極的に進めています。

平成18年度当初には63%であった耐震化率を84%まで向上させており、今後も耐震化率の向上を目指しています。

#### ○新キャンパスの整備

吉田・宇治キャンパスでは教育・研究の多様化により大学院生などが増加し、著しく狭くなりました。そこで教育研究環境の質的改善を図るため、平成11年より桂キャンパスの整備を進めています。現在、全体計画の約半分の整備を終え、物理系総合研究棟をPFI手法の導入により整備中です。

未整備である情報学研究科ゾーンの整備は、引き続き予算獲得に努力します。

#### ○吉田本部構内の再配置

桂キャンパスの整備に伴い空きスペースとなる吉田本部構内の施設について、既存スペースの有効活用の観点から策定された「吉田本部構内の再配置計画」に基づき、吉田本部構内の再配置を進めています。

#### ○附属病院の整備

患者中心の開かれた病院として安全で質の

高い医療の提供、新しい医療の開発と実践を通じての社会貢献、専門家としての責任と使命を自覚した人間性豊かな医療人の育成を目的とした京大病院の基本理念に基づく医療を果たすため、附属病院の整備を推進しており、寄附金により新病棟整備の第1期計画である「積貞棟（寄附病棟）」の整備を行いました。

#### ○大学として特に戦略的に取り組む整備

大学として特に戦略的に取り組む整備として、再生医療に革命的な発展を促すことが期待される「iPS細胞研究拠点施設」の整備を行いました。



iPS細胞研究所研究棟 竣工

## 施設に関するシステム改革の取り組み

従来、施設整備は国の予算に委ねられていましたが、既存施設の利用状況の見直しなどの全学的視点に立った施設運営やスペースの弾力的な活用並びに、国費以外の多様な財源を活用した整備など、従前の手法にとらわれない「システム改革」を推進しています。以下にその活動を紹介します。

### ○スペースの有効活用

吉田本部構内の再配置計画の見直しを行い、「総合研究1号館・プロジェクトラボ」に全学共用スペースとしてスペースチャージを課したレンタルスペースを確保し、運営をしています。なお、現在建設中の物理国際先端研究棟（仮称）についても同様に、平成23年度からの運営を目指しています。

また、既存施設の使用状況を点検・評価し、空きスペースを有効に活用する取り組みを推進します。

### ○新たな整備手法

「京都大学重点事業アクションプラン2006～2009」では教育、研究、学生支援、医療支援、広報・社会連携事業等を推進するため、目的積立金等で学生支援施設などの整備を進めてきました。

平成22年より「京都大学第二期重点事業実施計画」を策定し、引き続き教育推進、研



病院西構内・東構内の一体化整備

究推進、学生支援、医療支援、広報・社会連携、基盤整備事業等を推進するため、自己財源にて整備を進めていきます。

また、平成22年3月に完成した「積貞棟」は、寄附受け入れにより整備を行いました。今後は多様な財源を活用した整備を推進します。

### ○省エネルギー対策

エネルギー消費量、CO<sub>2</sub>排出量削減のため「京都大学環境賦課金方針」を策定し、環境賦課金制度を導入しました。これにより得られる環境賦課金を原資とし、平成20年度よりESCO事業の導入など設備等の省エネルギー化を進めています。

京都大学環境賦課金方針の概要

## 達成のためのアクション

- ◆ハードウェア改修などによってエネルギー（電気、ガス、水道）消費効率の向上を達成するために環境賦課金制度を導入し、その賦課金を原資として年間約2.4億円の省エネルギー投資を行う。
- ◆賦課金はエネルギー消費量に比例して算出し、全学的経費負担を50%（約1.2億円）、部局負担を50%（約1.2億円）とする。
- ◆部局負担は前年度のエネルギーの消費量に応じて算出する。
- ◆部局へは、原則として徴収した賦課金額以上の省エネルギー対策を3年間に1回以上実施する。
- ◆省エネルギー対策は部局が独自に立案・実施することを原則とするが、省エネルギー効果の高い対策の立案・実施は大学執行部が先導的に推進する。



Nobutaka Fujii



課外活動施設（ボックス棟）

### ○キャンパス環境整備

積貞棟の建設に伴い、病院西構内と病院東構内を一体化した環境とするため、既存の塀

を低くするなど、鞠小路通りを含めた環境整備を進めています。

## 環境賦課金の流れ

エネルギーに4～5%課金

